

フリースタイル ジャッジ方法

ジャッジは3名

- ・スタティック審査員 (以下:S)
- ・ダイナミック審査員 (以下:D)
- ・コンビネーション審査員 (以下:C)

各要素のジャッジはそれぞれ5点満点をつける事ができる。

スタティック(第一審査員)

- ・1ラウンド内で1つの完璧な(S)要素 → 最高1.5点
- ・1ラウンド内で2つの完璧な(S)要素 → 最高3.0点
- ・1ラウンド内で3つの完璧な(S)要素 → 最高5.0点

スタティック要素とはホールド3秒以上および
スローモーションのパワー、ストレングスの技の事。

例) プランシェ、ヒューマンフラッグ、フロントレバー、
バックレバー、スローマッスルアップ

ダイナミック(第二審査員)

(1)ダイナミックストレングスと(2)ダイナミック
アクロバットの2つのカテゴリーに分けられる。

- ・1ラウンド内で(1)のみを示した場合 → 最高2.5点
- ・1ラウンド内で(2)のみを示した場合 → 最高2.5点
- ・1ラウンド内で(1)(2)を示した場合 → 最高5.0点

(1)ダイナミックストレングス

例)「ハンドスタンドプッシュアップ」、「ワンアームプルアップ」、「マッスルアップ」

(2)ダイナミックアクロバット

例)「スウィング360」、「ギンガー」、「フリップ」、「その他勢いが主に使用される動き全て」

コンビネーション(第三審査員)

ストレングス要素およびダイナミック要素のコンビネーション
に対してのみ点数(0~5)をつける事ができる。
また、個々の技の品質は評価しない。

- ・1ラウンドで(S)のコンビネーションのみ → 最高1.5点
- ・1ラウンドで(D)のコンビネーションのみ → 最高1.5点
- ・1ラウンドで最低2つずつの(S)と(D)のコンビネーションを披露した場合 → 最高5.0点 ※1つずつの(S)(D)のコンビネーションでは認められない。

※コンビネーションは床で動きを止めたり、バー上で流れを止めてしまった場合には認められない。

点数範囲と取得点数

使用する点数は

「0」、「0.5」、「1.0」、「1.5」、「2.0」、「2.5」、「3.0」、「3.5」、「4.0」、
「4.5」、「5.0」

演技構成について

◎3つの要素の内1つの要素を完璧に披露し、他の2つの要素を示さなかった場合、1人の審査員から最大5.0点を取得でき、他の2名のジャッジからは0点を与えられる。

◎3つの要素の内2つの要素を完璧に披露し、他の1つの要素を示さなかった場合、2名の審査員から最大5.0点ずつ(最大合計10点)を取得でき、他の1名のジャッジからは0点を与えられる。

減点について

◎要素に関わらず演技全体において失敗をした場合、3名のジャッジはそのラウンドで最大点数(5点)を与える事はできない。

◎要素に関わらず演技全体において1回失敗した場合、3名のジャッジはそのラウンドで最大4.5点まで与える事ができる。

◎要素に関わらず演技全体において2回以上失敗した場合、3名のジャッジはそのラウンドで最大4.0点まで与える事ができる。

※失敗とは鉄棒から落ちる、または片手だけ鉄棒に付けたまま部分的に落ちること。上記以外の失敗は、要素の「悪い形」と見なされ「失敗」とは定義されない。

技の重複について

◎同ラウンドで1回同じ技を繰り返した場合(単発技、コンビネーションとして)3名のジャッジはそのラウンドでそれぞれ最大4.5点まで与える事ができる。

例)「鉄棒でプランシェ→プランシェ」、「540→540」、「マッスルアップ→マッスルアップ」

※器具や床への移動がある場合は別の技として判定する。

※片手技を両腕で一回ずつ行う事は減点にはならない。

※ダイナミック技として連続して行う分に関しては減点対象にはならない。

◎同ラウンドで2回以上同じ技を繰り返した場合、3名のジャッジはそのラウンドでそれぞれ最大4.0点まで与える事ができる。

例)上記の重複を1ラウンド内で2回以上行った場合。

◎コンビネーション技として、3つの要素(S)(1)(2)の内最低1つの要素を違う技で行う事で要素重複による減点は与えられない。

例)「鉄棒でフロントレバープルアップ→フロントレバー→スウィング360のコンビネーション」→「鉄棒でフルプランシェプッシュアップ→フロントレバー→スウィング360のコンビネーション」

◎ワンポイントアドバイス◎

- ・スタティック、ダイナミックストレンクス・アクロバットの3つを混合して披露してみよう！
- ・要素の重複に注意して4つの技を連続して行ってみよう！
- ・2分間を上手に使うだけ技やコンビネーションのクオリティを上げてみよう！

